

令和3年度 研究紀要

令和4年3月

東京都奉仕・ボランティア教育研究会

目 次

研究紀要発行にあたって

東京都立上野高等学校 統括校長 吉田 寿美 1

「ボランティア」この言葉を聞くと思い出すこと

東京都立向丘高等学校 副校長 石井 久美子 2

制限下でのボランティア活動

東京都立白鷗高等学校 生徒会執行部 3

学校 2020 レガシーボランティア活動

東京都立上野高等学校 統括校長 吉田 寿美 4

「市民社会をつくるボランティアフォーラム TOKYO」に参加しよう

東京都立小石川中等教育学校 副校長 藤田 豊 5

「第 46 回全国高等学校総合文化祭東京大会」実行委員会 ボランティア部門における活動報告

東京都立神代高等学校 主任教諭 鯉渕 健太 6

都立特別支援学校における社会貢献活動の試み

東京都立永福学園 統括校長 伏見 明 8

地域の餅つき大会と硬式野球部のつながり

東京都立王子総合高等学校 教諭 板垣 慶樹 10

赤羽北桜高校の活動～専門高校の生徒の力で地域活性化を目指す～

東京都立赤羽北桜高等学校 統括校長 富川 麗子 11

令和 3 年度 東京都奉仕・ボランティア教育研究会会員

13

研究紀要発行にあたって

東京都立上野高等学校
統括校長 吉田 寿美

平成 23 年度に発足した「東京都奉仕・ボランティア教育研究会」は、「奉仕・ボランティア教育」に関心をもつ教育者やボランティア関係団体の方々と一緒になって、活動している研究会です。学校の中でのボランティア体験活動推進について研究しています。

令和 3 年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために、昨年度に引き続き、NPO 法人「さわやか青少年センター」と本研究会で共催する全国規模の「スクールボランティアサミット」の開催を見送りました。その代わりに、本研究会の複数の委員が所属している令和 4 年度に東京で開催される「全国高等学校総合文化祭ボランティア部門」の企画・運営に関わることが主な活動になりました。11 月 14 日（日）には、「小金井宮地楽器ホール」で開催されたプレ大会の企画・運営を行いました。現在は、来年度の本大会の企画・運営を進めているところです。

ボランティアの基本理念には、「自主性・主体性」、「社会性・連帯性」、「無償性・無給性」の 3 原則、更に「創造性・開拓性・先駆性」を足した 4 原則、最近では「評価性」、「継続性」等が入る 5 原則などがあります。

ボランティア活動は、決して特別な活動ではありません。地域の防災訓練に生徒会が参加する、地域の小学校で生徒が勉強を教える、地域清掃を部活動で行う等、日常の身近なことがボランティア活動につながっており、無意識にボランティア活動を行っている例も多いです。ボランティア活動は、強制されて行うものではありませんし、自己犠牲でもありません。「できる人が、できる時に、できることを」の精神で行う活動です。本研究会では、学校教育の中でボランティア活動体験を行うことを通して、ボランティア活動の楽しさを味わったり、人生のどこかでボランティア活動を行う土壌を作ったりすることができればと考えています。

今年度の研究紀要は、ボランティア活動は、決して特別な活動ではない、身近なところにボランティア活動の芽はあるというメッセージを届ける一冊にしたいと考え、各委員がボランティア活動との関わりを自由に述べる構成にしました。各学校・各団体のボランティア活動の状況が報告され、ボランティア活動に関する様々な視点が盛り込まれた一冊になりました。この冊子が、皆様の学校教育の中でのボランティア体験活動を実施する上での参考になり役立つことを願っています。

なお、学校教育の中でボランティア体験活動を行いたいけれども、活動方法が分からないというお問い合わせを受けることがありますので、東京都のボランティアに関する WEB サイトを紹介します。東京都トップページ＞暮らし・健康・福祉＞NPO・ボランティア＞ボランティア <https://www.metro.tokyo.lg.jp/kurashi/npo/volunteer/index.html> です。ここには、ボランティア体験活動を行うための様々な情報が掲載されています。

今後とも、本研究会の活動への御理解と御協力をどうぞよろしくお願い致します。

「ボランティア」この言葉を聞くと思い出すこと

東京都立向丘高校

副校長 石井 久美子

今から10年以上前のことです。今では東京のランドマークになった東京スカイツリーが、まだ本所高校の体育館の屋根をやっと超える高さだった頃のことですので、多少記憶があいまいなところもあるのですが・・・。

当時私が勤務していた都立本所高校は、毎年9月の防災訓練の際、東京都と墨田区が連携して実施する大規模な防災避難訓練に1学年全員が参加していました。普段の「奉仕」の体験活動は、学校近隣のごみ拾いが主でしたが、この訓練だけは、事前の準備を入念にして、当日は、実際に災害が起こったかのような大がかりな設定、具体的には自衛隊、東京消防庁、警視庁の他、所管の消防署、警察署、消防団、地域住民などが参加、ヘリコプターや重機なども使った訓練の中、生徒がそれぞれの役割を一生懸命担っていたことは深く私の心に残っています。それと同時に、事後の感想に、全員が書いていた「災害時は率先して人の役に立つことをしたい。」という気持ちが今も変わらず続いていて、災害時には実際に行動していることを願っています。

そして、本所高校がこの防災訓練に参加していたことが縁で、東京都教育委員会から御指名を受け、女子生徒2人が、神戸で開催される、兵庫県内の高校生が阪神淡路大震災を教訓として、「災害時に高校生として何ができるか」を探究した成果発表会に参加する機会を得ました。2人は出発前に、阪神淡路大震災の悲惨さやボランティアがこの震災がきっかけで始まったこと等を熱心に調べるうちに、ボランティア活動の重要性を実感しました。朝早い新幹線に乗り、降り立った神戸は震災からの復興を遂げた近代的な街並みに、少しだけですがまだ震災の名残りがあったのを覚えています。

兵庫県内の高校生が、幼い頃に経験した大震災を教訓に、次に起きてしまったときに何が必要で、誰がどう動くのが、大学の先生に相談したり、被災した方から聞き取りをしたりして、高校生たちが一から考えた、みんなが助け合って生き抜く方法を発表してくれました。どれも震災の現実と向かい合い、過去から続く悲しみを心に秘めながら、この経験を活かしたいという、強い気持ちが感じられるものばかりでした。

最後に、本所高校の生徒が、スカイツリーを中心に撮影した航空写真を示しながら、本所高校と生徒が取り組んでいるボランティア活動についての説明をしました。その時、私は東京の写真を見て、大小、高低様々な建物が密集しているこの東京に、大震災が起きたら想像を絶する大惨事になることは間違いない、と恐怖心が起こったのでした。でも、私の思いとは裏腹に、兵庫県内の高校生たちは、2年後完成予定のスカイツリーの話題を楽しそうに聞いていました。

帰りの新幹線での話から、兵庫県の同じ高校生が、幼いころに未曾有の災害を体験し、住む家や大切な人を失った経験やそのことに正面から向き合って、あのような発表ができたことに、本所高校の2人は強く心を動かされたことがわかりました。

それから十数年後、東日本大震災が起こり、再び「ボランティア」の役割や重要性が改めて日本全国に認識され現在に至ります。さらに10年が過ぎた今、私たちは何を教訓にできたのか、自問する日々です。

制限下でのボランティア活動

東京都立白鷗高等学校
生徒会執行部

1 行った活動内容

私たち東京都立白鷗高校生徒会執行部では、オリパラボランティア活動を行いました。ボランティア活動の一環として行ったことは、学校周辺の清掃活動でゴミ拾い、そして枯れ葉の掃き掃除です。生徒会役員6～8人で月に一度、水曜日の放課後に日程を設定し行いました。合計4回の活動を想定しており、今も活動は進行中です。

2 活動を行ったきっかけや背景

今回私たちがこの活動を行おうと思ったきっかけとして、新型コロナウイルス感染症による影響が挙げられます。というのも、感染防止での活動になってしまうので、かなり活動は限られてしまっているのが現状です。例年白鷗高校の1年で「上野・浅草」について学習をしており、その一環で地域の伝統行事に参加することを行って行いましたが、コロナ禍でそれができなく、地域の関わりがあまりできないことがありました。ですので、その中でも何か私たちにできることはないかと考え、非接触で感染リスクの少ない「学校周辺の清掃活動」を取り上げました。また、活動を申請しその活動を終了するとオリパラのTシャツやタオルが貰えることもあり、生徒会で少しずつでも継続して行うことを決めました。

3 その後の地域の関わりや活動前後の関わりの変化

今回地域との関わりはあまり感じる事が出来ていないのが正直なところですが、というのも、今回の活動は生徒会が自主的に行っているのも特に地域の方々との交流があるわけではないからです。ですので、関わりの変化等はないですが、これから少しずつ何か地域貢献する形で、積極的に地域行事やボランティア活動に参加していくつもりです。

4 活動を行って感じたこと

活動を通して一番感じたものは、やはり活動の制限です。今回ボランティア活動で生徒や地域の方々にも協力を仰いで行うつもりでしたが、大人数で行うリスクを懸念し今の規模を縮小した形になりました。しかし人数が少ないので、その分地域に貢献できたかというところではできませんでした。この反省を活かし、制限されている中で最大限できることをもっと議論すべきでした。ですが今回活動を行ったことは事実です。私たちの活動で街が綺麗だと思っていただけたら、私たちの活動は意味あるものだったと思います。



生徒会による枯れ葉の掃き掃除

学校 2020 レガシーボランティア活動

東京都立上野高等学校
統括校長 吉田 寿美

「学校 2020 レガシーボランティア活動」とは、①東京 2020 大会後も学校におけるボランティア活動が長く続く取組となるよう、各学校が築き上げてきたボランティア活動を「学校 2020 レガシーボランティア活動」として募集するとともに、その取組を他校に広く普及する、②令和元年 9 月 27 日付 31 教指企第 1133 号「東京 2020 大会における中高生ボランティア体験（仮称）参加希望調査について（依頼）」に基づき参加を希望した在校生等、ボランティア活動に関心のある生徒がボランティアマインドを発揮できる機会を創出することを目的にした教育庁指導部発信の活動です。活動期間は令和 3 年 10 月上旬から令和 4 年 2 月まで、参加者には中高生ボランティア体験のユニフォームが支給されます。

本校の生徒に呼び掛けたところ、15 名の生徒が応募しました。以下は、本校生徒の「応募理由」や「希望するボランティア活動」です。

【応募理由】

- ・中学生の時に所属していた吹奏楽部で地域活動を行っていました。ボランティアを通してたくさんの人々と触れ合うことができたため、とても良い経験になりました。高校生で活動の幅が広がったため、是非又このような経験をしたいと思いました。
- ・中学生の時に何度もボランティアをやったことで興味があり、高校生で自分で探して好きなボランティアに取り組むことができる貴重な機会だと思ったからです。
- ・何でも良いからボランティアをやってみたい。良い経験になり、自分のためになることをしたい。中学生の頃からやりたい気持ちがあったが、あまりボランティアの募集もなく活動したことが少なかった。自分から動くべきだと思った。
- ・何かこの地域の町や人々に貢献できるようなことがしたい。またこの上野高校の仲間と一緒に協力して、この学校生活の中で良い経験になればと思う。
- ・部活動や委員会とは別に何かやってみたい。高校生同士や地域のつながりを創りたい。
- ・様々な体験をしたいから。自分の考えと異なる人、異なる文化圏に興味があるから。人と関わることが好きだから
- ・中学生の時、中学校で募集していた 2020 オリンピックのボランティアに申し込んでいたけれども、新型コロナウイルス感染症の影響で中止になってしまいました。ボランティア活動を行う機会がなくなってしまいボランティア活動を行ってみたいと思っていたところ、このお話があり申し込みました。

【希望するボランティア活動】

- ・清掃活動 ・校内へのリサイクルボックスの設置 ・学童保育 ・保育園 ・病院
- ・地域マラソン大会 ・地域イベント運営 ・観光おもてなし 等

生徒にボランティアセンターの存在を伝え、生徒は興味・関心のあるボランティア活動を探し、活動を行いました。2 学期には、生徒による校内周辺の清掃活動も行われました。また、この活動をきっかけに、来年度の全国高等学校総合文化祭ボランティア部門の生徒委員を希望する生徒も出ました。

「市民社会をつくるボランティアフォーラム TOKYO」に参加しよう

東京都立小石川中等教育学校
副校長 藤田 豊

毎年2月に、飯田橋の東京ボランティア市民活動センターにおいて、頭書のフォーラムが開かれます。ここでは、東京都奉仕・ボランティア教育研究会、そして本冊子をお手に取られた皆さまに、本フォーラムの紹介をします。

■様々な人が集う、多様な実行委員

パンフレットによると、このフォーラムは、「私たちの暮らしに関わる様々な社会問題に焦点をあて、それを共有し、私たち市民にできることを考えていくためのイベントとして、平成16年（2004年）から開催しています。企画運営は実行委員会形式で、分野、地域、セクターを横断したボランティア・市民活動に関わるメンバーで組織しています。」とあります。実行委員は、高校生から大学生・社会人と年代的に幅広く、活動内容も一人一人方向が異なります。共通していることは、暮らしにかかわる社会課題（大きなことから小さなことまで）に対して何か取り組みたい・踏み出したい・周囲に広げたいという熱い思いを持っていることです。



〇フードロスから自分にできることを考えよう。
〇温暖化は止められる！？～東京でできること～ 〇貧困問題の「今」を知る
〇ダブルケア（子育て・介護）に備えよう！ 〇命と食と環境と。雑木林保全活動
〇病気のある子どもたちの地域での学びの場づくりをめざして など

■幅が広がるボランティアの世界（多彩な分科会テーマを一部紹介）

〇孤独・孤立に立ち向かう 〇フードロスから自分にできることを考えよう。
〇温暖化は止められる！？～東京でできること～ 〇貧困問題の「今」を知る
〇ダブルケア（子育て・介護）に備えよう！ 〇命と食と環境と。雑木林保全活動
〇病気のある子どもたちの地域での学びの場づくりをめざして など

■実行委員が話し合いながら分科会を企画しフォーラムを作り上げる

実行委員同士が日頃課題と感じていることやちょっとした工夫で展開が変わることなどについて話し合い、実行委員が分科会を企画し、実施します。分科会に参加し、実行委員や講師の方からの課題提起や事例、それぞれの立場での取組・悩み・工夫などが共有されて、参加者が一歩踏み出ていきます。私自身、学校でのボランティア活動の枠（と自分で思い込んでいた枠）を超えており、自らが無知であることを知りました。社会制度から取り残されたり、忘れられそうなことにスポットを当てて、地道に活動されている方の取組を知り、はじめの一歩である「知る」ことができたと感じています。

■ぜひ関わってください！

生徒の皆さんの参加は、無料です。自分で取り組みたい・探究したいという人は実行委員（年度初めに募集があり）、運営にも少しだけ関心がある人は、当日の運営ボランティアとして関わることもできます。事務局は、東京のボランティア活動を支える東京ボランティア・市民活動センターです。高校生・大学生の思いや活動をととても大切にしてくれます。都内の高校には、1月頃にパンフレットが郵送されます。本冊子をお読みいただいている皆さん、是非、生徒の皆さんに紹介してください。先生方も、関心があるテーマがありましたら、参加者・当日の運営ボランティアとして参加できます。きっと、皆さんの引き出しが増えることになると思います。

お待ちしております。

ボランティアフォーラム HP ➡



「第 46 回全国高等学校総合文化祭東京大会」実行委員会

ボランティア部門における活動報告

東京都立神代高等学校
主任教諭 鯉渕 健太

令和 4 年 8 月に東京都では初開催となる第 46 回全国高等学校総合文化祭東京大会（以下「東京大会」という。）のボランティア部門の実施に向け、本研究会は令和 2 年 12 月より東京大会実行委員会（部門別委員会及び生徒部門別委員会）において企画・運営等の補助に携わってきた。以下、令和 3 年度の活動を報告する。

- 令和 2 年 12 月 13 日（日） 13:00～17:00 東京都立新宿山吹高等学校
内容：自己紹介／大会概要の説明／委員長・副委員長選出／フィールドワーク案の検討／生徒実行委員同士の意見交換等
- 令和 3 年 5 月 10 日（月） 16:45～18:30 東京都立上野高等学校
内容：プレ大会（令和 3 年 11 月）実施に向けた年間活動計画の検討／フィールドワーク案の検討等
- 令和 3 年 7 月 9 日（金） 16:00～17:00 東京都立上野高等学校
内容：東京大会及びプレ大会についての開催内容・予算案に関する情報交換／年間活動計画の策定等
- 令和 3 年 8 月 4 日（水） 15:00～17:00 東京都立上野高等学校
内容：東京大会及びプレ大会参加要項の確認等
- 令和 3 年 8 月 12 日（木） 14:00～17:00 小金井ボランティア・市民活動センター
内容：小金井市観光まちおこし協会との打ち合わせ
- 令和 3 年 10 月 10 日（日） 13:00～17:00 東京都立中央図書館 研修室
内容：東京大会・プレ大会の概要説明／自己紹介／生徒の係分け／委員長・副委員長決意表明
- 令和 3 年 10 月 24 日（日） 13:00～17:00 東京都立上野高等学校（オンライン開催）
内容：ボランティア部門の活動に関する確認／プレ大会に関する協議等
- 令和 3 年 11 月 7 日（日） 13:00～17:00 東京都立中央図書館 研修室
内容：プレ大会当日の流れの確認／各係の内容・分担の確認／フィールドワークのコース分け・注意事項等

■令和3年11月14日(日) 9:00～17:00 小金井 宮地楽器ホール【プレ大会】

午前：開会式／フィールドワーク（小金井市周辺）

午後：講演（社会福祉法人小金井市社会福祉協議会 主事 嶋田直人さん）／活動報告（東京都立立川ろう学校）／閉会式



ボランティアガイドによる
「小金井市まちなか観光案内」
左：天神橋 右：はけの小路



プレ大会参加委員の集合写真

■令和3年12月7日(火) 16:00～17:00 オンライン開催

内容：フィールドワーク案の検討（東京大会）

■令和3年12月26日(日) 13:00～17:00 東京都立上野高等学校（オンライン開催）

内容：プレ大会の振り返り／各係での協議／フィールドワーク案（東京大会）の検討

■令和4年1月29日(土) 13:00～17:00 東京都立上野高等学校（オンライン開催）

内容：フィールドワークのコース決定等

■令和4年3月27日(日) 13:00～17:00 東京都立中央図書館 研修室

内容：フィールドワークのコース決定・生徒のコース振り分け等

都立特別支援学校における社会貢献活動の試み

東京都立永福学園
統括校長 伏見 明

東京都教育委員会は、オリンピック・パラリンピック教育として、公立小・中学校、都立高等学校等において、「ボランティアマインド」、「障害者理解」、「スポーツ志向」、「日本人としての自覚と誇り」、「豊かな国際感覚」の5つの資質を育むとともに、共生・共助社会の実現を目指す取組を推進してきた。

都立特別支援学校においても、上記の5つの資質を、児童・生徒等の障害の種類・程度等に応じ、「人の役に立とうとする意欲」、「他者との相互理解」、「多様なスポーツへの親しみ」、「地域や社会の一員としての自覚」、「多様な人々との交流への意欲」と位置付け、様々な活動に取り組んできたところである。中でも、オリンピック・パラリンピック教育が目指す人間像の一つである「多様性を尊重し、共生社会の実現や国際社会の平和と発展に貢献できる人間」の育成に向け、全都立特別支援学校において、児童・生徒等と地域の様々な人々がつながる社会貢献活動を推進した。

従前から都立特別支援学校においても、地域清掃やリサイクルといった活動は行ってきたが、直接、地域の人と関わりながら行う活動は少なかった。また、各校は地域の高齢者施設をはじめ地域団体等との関係が希薄であり、充実した社会貢献活動を推進するには困難が予想された。そこで、東京都教育委員会は、本研究会の会員でもある「認定 NPO 法人さわやか青少年センター（以下、「SSC」という。）」に、平成 28 年度から平成 30 年度まで社会貢献活動を実施するためのコーディネート業務を委託し、「都立特別支援学校における社会貢献活動モデル事業」を実施した。ここでは、その概観をまとめ、報告する。

1 モデル事業の計画

モデル事業は、各都立特別支援学校が SSC のコーディネートで社会貢献活動を 1 回実施し、翌年度以降、自前で継続実施することを目指して行った。各年度の実施校は東京都教育委員会が指定し、各校を SSC が訪問して各校の実態、希望などを聴取した上で、各校の近隣で最も望ましい高齢者施設等を仲介するという形式を採った。

具体的な社会貢献活動の内容の決定は、各校と高齢者施設等で行ったが、必要に応じて SSC が提案することで、円滑な計画立案につながった。

2 モデル事業の実際

モデル事業は、都立特別支援学校 57 校で実施した。表 1 は、学校種別に社会貢献活動の内容をまとめたものである。77%の学校は、特別養護老人ホームや通所介護事業所などと活動を行い、残り 23%の学校は、町会や自治会、高齢者のサークル活動グループ等と活動を行った。また、70%の学校が、児童・生徒が高齢者施設等を訪問して活動し、残り 30%の学校が、高齢者等を学校に招いて活動を行っていた。活動の内容は、ほとんど（88%）の学校が、歌や合奏、ダンスやゲームなどのレクレーションを通じての活動であった。また、レクレーションを行った学校のうち、10 校でボッチャを取り入れていたのが、特徴的であったと言える。独自の取組として、知的障害特別支援学校の 2 校で、花卉植え作業を地域の人たちと行い、1 校で高齢者が店舗で買った食料品を自宅まで運ぶ活動を行っていた。なお、肢体不自由特別支援学校では、児童・生徒の移動等が制約されるため、70%の学校が高齢者等を学校に招いて活動を行っていた。

表 1) 学校種別による社会貢献活動の概要

学 校 種 別	実施校数	実施学部※			活動対象		活動形態		活動内容	
		小学部	中学部	高等部	高齢者施設	地域団体等	訪問	招待	レクリエーション	その他
視覚障害	4校	1校	2校	1校	4校	0校	3校	1校	4校	0校
聴覚障害	4校	1校	2校	2校	3校	1校	3校	1校	4校	0校
肢体不自由	10校	2校	4校	8校	6校	4校	3校	7校	9校	1校
知的障害	39校	3校	12校	26校	31校	8校	31校	8校	33校	6校

※学校によっては複数学部合同で実施したため、学部数の合計と実施校数は一致しない

3 モデル事業の成果と今後の展開

モデル事業の成果は、SSC が実践事例集にまとめている。この全文が東京都教育委員会の HP に掲載されているので、右の QR コードからアクセスし、参照されたい。ここでは、この実践事例集から参加者の感想のいくつかを紹介し、成果報告に代える。



表 2) 活動参加者の感想（抜粋）

児童・生徒	・利用者の方が、手を握って涙を流しながら「よかったです」「来てくれてありがとう」と言ってくださり、びっくりしたし、うれしかった。(視覚障害) ・普段年配の方と交流したことがなかったので緊張しました。今後も是非、交流を続けたいと思いました。利用者の方々にはいつまでも元気でいて欲しいです。(聴覚障害) ・利用者の方々に喜んでもらえるのか不安でしたが、最後には笑顔で話をしたり、ゲームをしたりすることができて良かったです。(肢体不自由) ・おばあさんに「人生で一番楽しかったです。ありがとう」と言って握手してもらえて、僕もうれしかったです。(知的障害)
教 員	児童・生徒と地域の皆様がふれあい、楽しんでいる様子から、何かをしてあげるといではなく、一緒に楽しむことで笑顔が増え、それが社会貢献になるのだと思いました。
利 用 者	・自分の孫が歌っているようで、本当に良かった。ありがとうございました。 ・こんな機会は本当になくて、来ていただいて会話してもらって、本当によかった。
施設職員	・普段とは違う利用者様の表情や笑顔を見ることができました。 ・孫を見るように真剣に聞き入っていました。「すごく楽しい会」「素敵な会」という感想をいただきました。涙で言葉にならない利用者様もあり、今後も良い関係を維持していきます。

※ なお、SSC と本研究会が共催する「スクールボランティアサミット」で、平成 29 年度に都立立川ろう学校、都立中野特別支援学校が、平成 30 年度に都立村山特別支援学校が、令和元年度に都立あきる野学園が実践報告している。

活動への協力を得たいずれの高齢者施設等からも、活動の継続を望む意見が寄せられていた。しかし、新型コロナウイルス感染症の発生で、ここ 2 年間は実施できないでいる。そのため、モデル事業で培った知見や関係性が失われることが危惧される。

今後、感染が終息した段階で、改めて社会貢献活動の取組が再開されると思われる。その際には、各地区のボランティアセンター等との連携が不可欠であると考えられる。

地域の餅つき大会と硬式野球部のつながり

東京都立王子総合高等学校
教諭 板垣 慶樹

本校は、令和2年度に開校10周年を迎えた、都立全日制総合学科単位制高校である。

本校硬式野球部は、開校とともに創部し、「常笑」「元気」「全力疾走」「全力カバー」をチームの合言葉に活動を続けている。活動場所は、本校のグラウンドで、平日4日間、土日も活動を行い、この他に年間40～50試合程度の練習試合を本校で行うこともあるため、近隣住民へ配慮した部活動運営を行っている。

本校硬式野球部は創部以来、毎年11月末から12月初旬にかけて行われる近隣自治会主催の餅つき大会に参加している。自治会から本校の生徒を必要とし、地域の行事を行って頂けることは、生徒にとって貴重な経験となる。また、指導方針のひとつの、「見ていて楽しい野球をする」「みんなから応援されるチーム」ということにもつながるため、積極的に参加してきた。

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、令和2年度以降は、餅つき大会は中止となっているが、今後、自治会主催の行事などが開催されることがあれば、参加を推進していきたい。

餅つき大会へ参加した生徒に話を聞くと、「地域の人たちが、王子総合高校野球部の活躍を見てくれている。餅つき大会に参加して、地域に貢献できたと思う。」などの感想が多くみられた。

学校運営連絡協議会のメンバーでもある、自治会長からも、「王子総合高校野球部のおかげで、餅つき大会が盛り上がった。」「小さい子どもたちがする餅つきの補助を積極的にやってくれた。」などと、感謝の言葉を頂いている。



地域のために何かできることを生徒と共に模索し、地域からも応援されるチームを目指すと共に、生徒が自発的に地域へ貢献しようとする態度を醸成していきたい。

赤羽北桜高校の活動～専門高校の生徒の力で地域活性化を目指す～

東京都立赤羽北桜高等学校
統括校長 富川 麗子

はじめに

令和3年4月に開校した都立赤羽北桜高等学校は、家庭学科、福祉学科を併せもった専門高校です。「保育・栄養科」「調理科」「介護福祉科」と3つの科があり、各分野のスペシャリストを目指して学習に、特別活動に取り組んでいます。

本校には、ボランティア活動に関連する次の4つの組織があります。「社会福祉同好会（部活動）」「ボランティアサポートチーム（有志）」「防災活動支援隊（有志）」「学校家庭クラブ」。どの組織も、一期生の生徒が担当の教員と話し合いを進めながら、校内外におけるボランティア活動の機会を設定し、取り組んでいるのが開校一年目の実態です。

1 各組織の取組紹介

（1）「社会福祉同好会（部活動）」

夏季休業中に実施したリーダー研修会において、高齢者施設とWEBEXでオンライン交流を行いました。各グループで特技披露を実施しましたが、社会福祉同好会の生徒達は、バルーンアートに取り組み、相手がいかに楽しめるかを考え、準備し、交流することが出来ました。今後は、他の同好会にも参加を呼びかけ、高齢者施設とのオンライン交流会を実施する予定です。

（2）「ボランティアサポートチーム（有志）」

11月12日（金）の放課後、ボランティアサポートチームの生徒を中心に、大正大学社会福祉学科オレンジリボン運動推進隊の学生4名と交流活動を行いました。大学生から、オレンジリボン運動について説明をいただき、4グループに分かれて、オレンジリボン、しおりの作成に取り組みました。各グループに大学生が入り、作り方を教えていただくとともに、大学の事、本校の事など語り合いながら、充実したひと時を過ごしました。学生4名からは、「オレンジリボンやしおりの作成を行う中で、北桜生が様々な質問をしたこと、興味・関心をいただけてくれたことから、『これからのオレンジリボン推進隊の活動をより良いものにしていこう』と次への目標を抱いたなどの感想をお寄せいただきました。今後は、大学生から教えていただいたことを校内に普及していく事が期待されます。

（3）「防災活動支援隊（有志）」

本校の避難訓練では、毎回、防災支援隊の生徒が大活躍です。防災活動支援隊の生徒が、担当教員、区内防災課の方と事前に打ち合わせをして避難訓練の計画などを行っています。これまで、第1回 避難訓練（火災）（6月2日 水）、第2回 避難訓練（地震）（7月19日 月）、防災講話（9月1日 水）、避難訓練（風水害）（12月16日 木）を実施しました。校内防災マップを作成、風水害のテーマの際には事前に様々な状況下におけるマイ・タイムラインを作成し、各教室でその内容について説明を行いました。さらに、防災活動支援隊が考えた防災に関するクイズを行い、防災についての理解を深めるなどの活動をしています。

(4)「学校家庭クラブ」

学校紹介 DVD の校舎案内を実施してくれました。本校のホームページにも掲載していますので、是非ご覧ください。また、家庭クラブの生徒が、昇降口付近の花壇にパンジーの苗を植えてくれました。冬の時期にパンジーの苗を植えると、翌年5月くらいまで楽しむことができます。登校してきた時、綺麗な花を見るとホッとします。寒い中、心が温まる活動に取り組んでいます。

2 今後の課題

開校一年目、一期生のみの赤羽北桜高校では、新型コロナウイルス感染症防止のため、様々な制約がある中での活動ではありますが、生徒達は赤羽北桜高校の文化と歴史を創っていこうと懸命に取り組んでいます。また、それを支える教員も熱心に指導に当たっています。

学んだことを自分の知識・技術として留めておくにとどまらず、周りの人を幸せにすることが出来る赤羽北桜生へと育つことを期待し、地域の皆様にも御協力いただきながら、専門性を生かしたボランティア活動へと発展させていきたいと思っています。



社会福祉同好会



ボランティアサポートチーム



防災活動支援隊



学校家庭クラブ

令和3年度 東京都奉仕・ボランティア教育研究会会員（学校関係）

役職等	氏 名	所 属	備 考
会 長	吉 田 寿 美	東京都立上野高等学校	統括校長
副会長	伏 見 明	東京都立永福学園	統括校長
副会長	石 井 久美子	東京都立向丘高等学校	副校長
顧 問	久 保 淳	武蔵野栄養専門学校	校 長
	富 川 麗 子	東京都立赤羽北桜高等学校	統括校長
	藤 田 豊	東京都立小石川中等教育学校	副校長
	小城原 友 子	東京都立田園調布高等学校	副校長
	神 谷 画 歩	東京都立八王子桑志高等学校	副校長
	竹 田 克 己	東京都立東久留米総合高等学校	
	桑 原 哲 史	東京都立松が谷高等学校	
	富 岡 教 之	東京都立橘高等学校	
	塚 田 行 江	東京都立桐ヶ丘高等学校	
	櫻 井 滉 輔	東京都立白鷗高等学校	
	正 木 成 昭	東京都立赤羽北桜高等学校	
	武 蔵 史 朗	東京都立赤羽北桜高等学校	
	佐々木 彬 人	東京都教職員センター	
事務局長	鯉 渕 健 太	東京都立神代高等学校	
会 計	板 垣 慶 樹	東京都立王子総合高等学校	

東京都奉仕・ボランティア教育研究会 令和3年度 研究紀要

令和4年3月発行

編集・発行 東京都奉仕・ボランティア教育研究会

事務局 東京都立神代高等学校内

電話番号 03（3300）8261

印刷所 有限会社福本印刷所

電話番号 03（3620）4629

裏表紙イラスト

テーマ：「人や生物を助けることは未来を助ける」

作 成：東京都立永福学園3年生徒

ボランティア活動をしている人たちが、地球中で様々な活動をしているイメージを絵にしました。

